

学校教育学専攻在籍院生研究活動状況一覽

2009年1月1日から2009年12月31日までの間に発表されたもので、本人より申告されたもののみを記載した。(※は国外で発表・報告されたもの)

《教育内容方法学分野》

緒方真奈美 (カリキュラム)

〈論文〉

- ・「カリキュラムのグランドデザインにみる教師の暗黙知(1) —研究開発学校の事例を中心に—」, 『学校教育学研究紀要』(筑波大学人間総合科学研究科学学校教育学専攻) 第2号, 2009年3月, 41-60頁.

〈学会発表〉

- ・「カリキュラム研究における教師の暗黙知の意義」, 日本カリキュラム学会千葉大学・神田外語大学, 2009年7月11日.

野澤有希 (カリキュラム)

〈論文〉

- ※「日本の新教育課程が求めるカリキュラム・マネジメント—カリキュラム開発モデルの再構成のために—」(田中統治との共著), 『全球教育展望』上海華東師範大学課程与教学研究, 2009年11月, 3-7頁, 14頁

〈学会発表〉

- ・「カリキュラム評価におけるCIPPモデルの意義に関する研究—教育的ニーズ把握を中心に—」 関東教育学会, 国士舘大学, 2009年11月1日.

〈その他〉

- ・(翻訳) 鐘啓泉・方明生「中国における教育課程改革とカリキュラム研究の課題」, 馬雲鵬「中国の基礎教育課程改革: 回顧と展望」日本カリキュラム学会20周年記念国際シンポジウム『日中韓のカリキュラム研究の成果と課題—日本カリキュラム学会創設20周年を記念として—』発表要旨集, 神田外語大学,

2009年7月12日, 21-36頁.

落合一浩 (教育方法学)

〈学会発表〉

- ・「異校種派遣研修における教員の意識とその変容—研修対象者へのアンケートを中心に—」(樋口直宏との共同発表) 第57回関東教育学会, 国士舘大学, 2009年11月1日.

板橋雅則 (道德教育学)

〈論文〉

- ・「岩瀬六郎における『生活訓練』の特質—『学級訓練』に着目して—」, 『筑波大学道德教育研究』(筑波大学道德教育研究会) 第10号, 2009年3月, 27-38頁.

〈学会発表〉

- ・「木下竹次における修身教育論の特質」, 日本教育方法学会第45回大会, 香川大学, 2009年9月27日.

〈その他〉

- ・図書紹介:『道德教育入門—その授業を中心に』(日本道德教育学会編), 『筑波大学道德教育研究』, (筑波大学道德教育研究会) 第10号, 2009年3月, 65頁.

小林将太 (道德教育学)

〈論文〉

- ・「道德教育におけるA. ブラシの self model の意義」, 『学校教育学研究紀要』(筑波大学大学院人間総合科学研究科学校教育学専攻) 第2号, 2009年3月, 61-79頁.
- ・「日本におけるコールバーグ理論の初期導入過程の検討—先行研究における記述の分析を通して—」, 『筑波大学道德教育研究』(筑波大学道德教育研究会) 第10号, 2009年3月31日, 39-54頁.

〈学会発表〉

- ・「コールバーグ道德教育論を基礎づける心理学の変容—ジャスト・コミュニテ

ィにおける自我発達としての道徳性発達―」, 日本教育方法学会第45回大会, 香川大学, 2009年9月27日.

《教科教育学分野》

内山知一〈社会科教育学〉

〈学会発表〉

- ・「多文化的市民性育成を目指す米国『国際教育』の試み―社会運動論による分析を手がかりに―」, 第20回日本公民教育学会, 茨城大学, 2009年6月20日.
- ・「米国『グローバル教育』の今日的傾向と社会科への視座―社会運動論による類型化を手がかりに―」, 第59回日本社会科教育学会, 香川大学 2009年11月23日.

大高 皇〈社会科教育学〉

〈学会発表〉

- ・The study about elementary-school students' image of local area -Tsuwaji elementary school in Matsuyama, Ehime as an example-, International Geographical Union Commission on Geographical Education, つくば国際会議場, 2009年8月8日.
- ・ドイツにおけるモビリティ教育の展開, 日本社会科教育学会, 香川大学, 2009年11月23日.

金 玟辰 (社会科教育学)

〈論文〉

- ・「茨城県筑波第一小学校における1950年代の新教育実践―カリキュラムの構想と自学学習の特質―」, 金玟辰, 篠崎正典, 國分麻里, 『学校教育学研究紀要』(筑波大学人間総合科学研究科学校教育専攻) 第2号, 2009年3月, pp. 81―99.
- ・「地理的探究に基づく学習の理論的展開」, 『社会科教育研究』(日本社会科教育学会) No. 107, 2009年8月, pp. 69―82.
- ・「Geographical Inquiry-based Learning in Japan」, 『新地理』(日本地理教育

学会), 第57巻 特別号, 2009年 8月, pp. 221-227.

〈研究・調査報告書〉

- ・「小・中学校における韓国学習の意義—忽那諸島の児童・生徒の認識を手がかりとして—」, 筑波大学博士課程「社会科教育学演習Ⅰ」調査報告, 『地域と教育—愛媛県松山市中島—』, 第8号, 2009年12月, 109p, pp. 95-107.

〈学会発表〉

- ・「Environmental Education of Mie University Brand」, Hye-Sook PARK, Hyun-Uk LEE, HyunJin KIM, IGU Commission on Geographical Education Tsukuba conference 2009, Tsukuba International Conference Center, August 6th, 2009 (英語).
- ・「Geographical Inquiry-based Learning in Japan」, IGU Commission on Geographical Education Tsukuba conference 2009, Tsukuba International Conference Center, August 8th, 2009 (英語).
- ・「オーストラリアにおける地理教育改革—『ナショナル地理カリキュラム』の作成過程を中心に—」, 2009年度日本社会科教育学会大会, 香川大学, 2009年11月23日.

坪田益美 〈社会科教育学〉

〈論文〉

- ・「多元社会カナダにおける社会的結束に取り組むシティズンシップ教育—アルバータ州社会科の『多様性の調整』に着目して—」『社会科教育研究』(日本社会科教育学会) No. 108, 2009年12月, 44-57頁.

〈研究・調査報告書〉

- ・「へき地小規模学校における地域・世代間交流の意義—松山市津和地小学校の取り組みを手がかりに—」, 井田仁康「社会科教育学演習Ⅰ」調査報告書, 『地域と教育—愛媛県松山市津和地島—』(筑波大学人間総合科学研究科学校教育専攻社会科教育学研究室) 第8号, 2009年12月, 総頁数108頁, 55-66頁.

〈学会発表〉

- ・「カナダ・アルバータ州における「多様性の調整」に基づくシティズンシップ教育」, 日本公民教育学会, 茨城大学, 2009年6月20日.

※ ‘Educating Citizenship for “Accommodation of Diversity” : A Case of Social Studies in Alberta, Canada’ The 5th citizED International Conference, The Hong Kong Institute of Education, Hong Kong, 24th-26th June, 2009.

- ・「アルバータ州社会科カリキュラムにおける『深い多様性』の尊重と『多様性の調整』」日本社会科教育学会，香川大学，2009年11月22日。

藤井大亮〈社会科教育学〉

〈論文〉

- ・“Applying oral history method of the Foxfire project to Japanese ‘local area’ study”, Proceedings of IGU Commission on Geographical Education, Tsukuba International Congress Center, 2009. 8. 6-9. 日本地理教育学会『新地理』第57巻特別号，2009年8月，pp. 242-248.
- ・「Foxfire 教員研修プログラムの構造と特徴—米国ジョージア州 Foxfire センターにおける夏季研修コースの参与観察から—」『千葉経済論叢』第41号，2009年12月，pp. 37-62.
- ・「米国の地域学習にみる世代間共生への取り組み—ジョージア州の Foxfire プロジェクトを事例として—」岡本智周・羽田野真帆編『共生をめぐる問題系の確認と展開—2009年度 IFERI 共同セミナー—』筑波大学共生社会学研究室，2009年12月，pp. 153-158.

〈研究・調査報告書〉

- ・「オーラル・ヒストリーを活用した平和学習の構想—愛媛県津和地小学校における実践を手がかりに—」、『教育と地域』第8号，筑波大学人間総合科学研究科学校教育学専攻「社会科教育学演習Ⅰ」調査報告，2009年12月 pp. 67-80.

〈学会発表〉

- ・“Applying oral history method of the Foxfire project to Japanese ‘local area’ study”, IGU Commission on Geographical Education, Tsukuba International Congress Center, つくば国際会議場，2009年8月8日
- ・「米国の高等学校におけるオーラル・ヒストリーの展開—ジョージア州の “Foxfire” プロジェクトを事例として—」日本オーラル・ヒストリー学会第

7回研究大会，北星学園大学，2009年9月12日。

- ・「Foxfire アプローチによる米国の授業改革—その理論と社会系教科への展開—」『日本社会科教育学会全国大会発表論文集』第5号，第59回全国研究大会（香川大学），2009年11月22日，pp. 36—37.

宮崎沙織〈社会科教育学〉

〈論文〉

- ・“The Characteristics of Environmental Learning in Geographical Education: An Analysis of Lower Secondary School Textbooks of social studies in Japan.”『新地理』（International Geographical Union Commission on Geographical Education 及び日本地理教育学会），第57巻特別号，2009年8月，pp. 238—241.
- ・「カリフォルニア州における環境リテラシー育成のための社会科プログラム環境の原理に基づく学習内容の再構成に着目して」、『社会科教育研究』（日本社会科教育学会）No. 108，2009年12月，pp. 58—69.

〈研究・調査報告書〉

- ・「小学校地域学習における「流通」に関する学習の単元構想—津和地島内の魚の流通調査を通して—」、『地域と教育』（筑波大学人間総合科学研究科学校教育専攻社会科教育学研究室），第8号，2009年11月，pp. 83—94

〈学会発表〉

- ・「カリフォルニア州社会系教科における環境を基盤とした教育内容構成原理」，日本公民教育学会，茨城大学，2009年6月20日。
- ・「アメリカ合衆国における環境リテラシー育成の理論と実践」，日本環境教育学会，東京農工大学，2009年7月26日。
- ・“The Characteristics of Environmental Learning in Geographical Education: An Analysis of Lower Secondary School Textbooks of social studies in Japan.”，International Geography Union, Committed on Geographical Education, Tsukuba Conference, つくば国際会議場，2009年8月8日。
- ・「米国カリフォルニア州の環境リテラシーを育む地理学習」，日本社会科教育学会，香川大学，2009年11月22日。

梁炳逸 (社会科教育学)

〈論文〉

- ・「Research method to investigate the thinking processes of students in Geography Education」, 『新地理』, 57 (特別号), 2009年8月, pp. 32-38.

〈研究・調査報告書〉

- ・「地理学習における関係的思考を促進するための教材の開発—愛媛県津和知島の地理的な事象を活用して—」, 筑波大学人間総合科学研究科学校教育学専攻「社会科教育学演習Ⅰ」調査報告, 『地域と教育』, 第8号, 2009年12月, pp. 25-39.

〈学会発表〉

- ・「Research method to investigate the thinking processes of students in Geography Education」, International Geographical Union Commission on Geographical Education, つくば国際会議場, 2009年8月6日.
- ・「『発話思考法』を活用した地理的思考に関する研究—地理学及び地理教育の専門家の地理的思考の分析—」, 日本社会科教育学会, 香川大学, 2009年11月22日.

李有珠 (人文科教育学)

〈学会発表〉

- ※「日本の小学校における韓国人児童の学習言語 (CALP) 向上のための語彙研究, 漢字語に焦点をあてて」日本語教育国際研究大会, オーストラリア・ニューサウスウェールズ大学, 2009年7月16日.

田中耕司 (人文科教育学)

〈論文〉

- ・「児童生徒の読むことの困難感の形式的・内容的変化に関する研究」, 『国語科教育』, 全国大学国語教育学会, 第65集, 2009年3月, pp. 51-58.

〈研究・調査報告書〉

- ・「義務教育段階の児童生徒の読みの遅れの実態とつまづきの解明」, 『第3回博報「ことばと教育」研究助成 研究成果論文集』, 2009年9月, 127ページ, pp. 87-89.

〈学会発表〉

- ・田中耕司・斎藤佐和・四日市章「聴覚障害児の読みの能力の習得上の特徴に関する研究」, 日本特殊教育学会第47回大会, 宇都宮大学, 2009年9月19日.
- ・「児童生徒の読みの能力の類型化に関する研究」, 第117回全国大学国語教育学会, 愛媛大学, 2009年10月18日.

八木雄一郎 (人文学科教育学)

〈論文〉

- ・「学校教授要目における教科内容決定の根拠—『講読』(『国語講読』) および『国文学史』の規定の変遷とその意味—『学校教育学研究紀要』, 筑波大学大学院人間総合科学研究科学校教育学専攻, 第2号, 2009年3月, pp. 101-117.
- ・「中学校教授要目改正(1931(昭和6)年)における教科内容決定の背景—『現代文』の定着に伴う『古文』概念の形成—『国語科教育』, 全国大学国語教育学会, 第65集, 2009年3月, pp. 43-50.
- ・「読書感想文問題史—『学校図書館』誌上における論争から—『文教大学国文』, 文教大学国文学会, 第38号, 2009年3月, pp. 35-46.
- ・「明治30年代における中学校国語教科書の編集方針—落合直文の国語教育観と編集教科書から—(辻尚宏との共著)『人文科教育研究』, 人文科教育学会, 第36号, 2009年8月, pp. 13-23.

〈学会発表〉

- ・「国民科国語における『古典トシテノ国文』—『古文』概念の成立時期についての一考察—」, 日本読書学会第53回大会, 筑波大学附属学校教育局, 2009年8月.

劉 晏君 (人文学科教育学)

〈論文〉

- ※「公学校における国語科の教科内容決定の要因—台湾第四期公学校用国語教科書を中心に—」, 『台湾日本語文学報』, 台湾日本語文学会, 第25号, 2009年6月, pp. 243-268.

〈学会発表〉

- ・「『台湾初版国語科教科書』（1962年）における国語科教育内容の原型」, 筑波大学日本語日本文学会第33回大会, 筑波大学, 2009年9月17日.

大塚慎太郎〈数学教育学〉

〈学会発表〉

- ・「学校数学における命題解釈を捉える枠組みを用いた問題設定場面の分析—What-If-Not 方略に焦点を当てて—」, 筑波大学教育学会第8回大会, 筑波大学, 2009年3月14日.
- ・「学校数学における学習者による命題解釈の分析と評価—命題が偽であることの説明に焦点を当てて—」, 日本数学教育学会第42回数学教育論文発表会, 静岡大学, 2009年11月7日.

小泉友香〈数学教育学〉

〈学会発表〉

- ※“An analysis of teacher’s Questioning in the mathematics classrooms in Japan and Germany”, Proceedings of Annual Conference for the Psychology of Mathematics Education vol.1, PME33, Thessaloniki, Greece, 2009年7月19–24日, p. 407.
- ・「日独両国の数学科授業に見られる課題の特徴」, 『日本教材学会第21回研究発表大会研究発表論文集』（日本教材学会）, 日本大学, 2009年10月17日, pp. 86–87.
- ・「日独両国における数学科授業の分析—話し合い場面にみる教師の発問に焦点をあてて—」, 『日本数学教育学会第42回数学教育論文発表会論文集』（静岡大学）, 2009年11月7, 8日, pp. 769–774.

小松孝太郎〈数学教育学〉

〈論文〉

- ・「学校数学における証明する活動のあり方～数学的探究に焦点をあてて～」, 『筑波大学教育学系論集』, 第33巻, 2009年3月, pp. 1–14.
- ・「学校数学における action proof の機能に関する研究～発見に焦点をあてて～」,

『日本数学教育学会誌 数学教育学論究』, 第92号, 2009年3月, pp. 35-48.

※Komatsu, K. (2009). Pupils' explaining process with manipulative objects. Proceedings of the 33rd Conference of the International Group for the Psychology of Mathematics Education, Vol. 3 (pp. 393-400). July, 2009.

〈学会発表〉

- ・「具体物を用いて事柄が成り立つ理由を説明する過程～異なる表現の関係づけに着目して～」, 『日本科学教育学会第33回年会論文集』, 同志社女子大学, 2009年8月25日, pp. 165-166.
- ・「action proofを活用して新たな事柄を生成する活動の促進」, 『日本科学教育学会第33回年会論文集』, 同志社女子大学, 2009年8月25日, pp. 373-374.
- ・「算数学習における説明と論駁の過程に関する一考察～反例に直面して推測と説明を再考する場面の分析～」, 『日本数学教育学会第42回数学教育論文発表会論文集』, 静岡大学, 2009年11月7日, pp. 547-552.
- ・「我が国の数学教育における証明研究の課題と展望」(茅野公穂, 中川裕之, 水谷尚人, 宮川健, 宮崎樹夫との共同発表), 『日本数学教育学会第42回数学教育論文発表会「課題別分科会」発表集録』, 静岡大学, 2009年11月7日, pp. 64-69.

辻山洋介 (数学教育学)

〈学会発表〉

- ・「学校数学における証明活動を捉える視点に関する一考察：活動としての側面に焦点を当てて」, 第33回年会 (日本科学教育学会), 同志社女子大学, 2009年8月25日 (論文集 pp. 161-164に掲載).
- ・「学校数学における証明活動の振り返りの要件：argumentation を視点として」, 第42回数学教育論文発表会 (日本数学教育学会), 静岡大学, 2009年11月8日 (論文集pp. 613-618に掲載).

増田有紀 (数学教育学)

〈論文〉

- ・「小学校算数科における角指導の現状とその課題—第4学年の現行教科書の分析を通して—」, 『学校教育学研究紀要』, 2号, 2009年3月, pp. 119-138.

- ・「児童・生徒の角に関する学習上の困難点の特定—学校数学における角の学習指導の再構成に向けて—」『日本数学教育学会誌数学教育学論究』, 第92号, 2009年3月.

〈学会発表〉

- ※“Exploring students” understanding of angle measure”, The 33rd Conference of the International Group for the Psychology of Mathematics Education, Thessaloniki, Greece, 2009年7月19–24日.
- ・「角の学習における動的な捉え方の役割—角度の測定活動における一児童の困難性の分析—」, 『第21回研究発表大会・研究発表論文集』(日本教材学会), 日本大学, 2009年10月17日, pp. 88–89.
- ・「角の概念の拡張における児童の困難性—平角を超える角度に関するインタビュー調査を通して—」, 『第42回数学教育論文発表会論文集』(日本数学教育学会), 静岡大学, 2009年11月7–8日, pp. 355–360.

〈その他〉

- ・「生徒の測定に対する理解の現状とその課題」, 『教育科学数学教育』(明治図書), 第615号, 2009年1月, pp. 98–102.

泉 直志 (理科教育学)

〈学会発表〉

- ・「理科教育における討論の促進のための指導—アギュメント概念を基にして—」, 日本理科教育学会, 宮城教育大学, 2009年8月19日.

稲田結美 (理科教育学)

〈論文〉

- ・「ドイツでの女子の物理学習を促進する実践的研究の特徴」, 『物理教育』(日本物理教育学会), 第57巻, 第2号, 2009年6月, 79–84頁.

〈学会発表〉

- ・「女子の理科学習促進のための人体アプローチ—看護的文脈による「仕事の原理」の教授を事例として—」, 日本理科教育学会第48回関東支部大会, 宇都宮大学, 2009年11月1日.

大瀧竜午（理科教育学）

〈学会発表〉

- ・「実験活動における変数制御の指導法の特質—AKSIS プロジェクトの分析を中心に」, 日本理科教育学会, 宮城教育大学, 2009年8月19日.

鈴木 宏昭（理科教育学）

〈学会発表〉

- ・「英国の理科教育における“Nature of Science”教材—王立化学会の教材を事例として—」, 日本教材学会, 日本大学, 2009年10月17日.